

小ギク栽培情報

令和3年産

第7号(臨時増刊号)

8月5日15時現在、台風9号および台風10号が発生しています。これら2つの台風は、今後、発達しながら日本列島に近づき、週末以降に大雨や強風をもたらすおそれがあります。

台風による被害を最小限に抑えるため、以下の点について対策をお願いします。

また、ほ場や施設の点検は、事故防止の観点から、台風情報を十分確認し大雨や強風がおさまってから行うようにしてください。

【台風接近前の対策（露地小ギク）】

- ① 事前に排水溝の点検や補修、除草を行い、長期滞水にならないよう注意してください。
- ② 畝の両端の親支柱や中間支柱をしっかりと立て直し、フラワーネットの張りが弱いようなら中間の支柱を追加し、フラワーネットがずり落ちないように矢じりバンド等で固定して補強してください。
- ③ フラワーネットは頂点から3分の1程度下がったところで支持するよう調整してください。
- ④ 台風が来る前に固めの切り前で収穫し、常温で水揚げ、保管後に出荷するようにしてください。その際、「調製」→「水揚げ」・「常温で良いができるだけ涼しい場所での保管」→「箱詰め前の再度切り戻し」を必ず行ってください。

【台風通過後の対策（露地小ギク）】

- ① ほ場の滞水した箇所については、速やかに排水を行ってください。
- ② 半日以上冠水した場合は、根が弱ってしまい水を吸えない状態になっています。雨が止んだ後に急に晴天になると蒸散がはげしくなり萎れてしまいますので、寒冷紗等で3～4日遮光しましょう。萎れが治らない場合は根の回復に努めてください。酸素剤を施用したり、マルチを切るなどして根の周囲に空気が入るようにしましょう。
- ③ 倒伏した場合は、できるだけ速やかに（茎が曲がる前に）修復し、土などの汚れを洗い落としてください。
- ④ 強風、大雨で株がゆすられたことにより、葉が傷み病害が発生しやすくなっています。病害防除を徹底してください(ダコニール1000散布)。
- ⑤ 台風通過後に収穫した花については、風雨による花卉や葉の傷みは高温、ムレにより症状が重くなるので、収穫後の水揚げや調製作業時は、通常よりばらけさせて取り扱うようにしてください。収穫時に葉や花が濡れているときは扇風機などで乾かし、蒸れを防いでください。

【台風接近前の対策（施設）】

- ① パイプハウス（アーチパイプ25mmφ、50cmピッチ、間口6.0m）が耐えられるのは風速25m程度で、補強パイプを入れた通称コンクラハウスでも風速32m程度と考えられます。内作に影響がなければ、フィルムは取り外しておきましょう。寒小ギク等内作がある場合は隙間や破れ、緩みを点検、補修してハウスを密閉しておきましょう。
※点検・補修箇所：フィルムの破れの補修、ハウスバンドの締め直し、バンド固定用のパイプや番線、らせん杭の点検、ドアの補強 等
- ② パイプ埋め込み部分が水で緩くならないよう、ハウス周囲の排水溝を点検して手直しします。
- ③ 強風により、資材・木片・小石等が飛来して被覆資材が破損しないように、施設周辺を清掃しておいてください。
- ④ 特に、鉄道沿線や幹線道路沿いのハウスでは、飛散したフィルム等が2次的な大事故の原因となることもありますので十分に注意してください。

【台風通過後の対策（施設）】

- ① 浸水があった場合は速やかに排水を行い、停滞水のないようにしてください。
- ② 吹き返しの風の強さや方向に注意しながら、サイドビニールの巻き上げ・天窓の解放を行って、施設内温度をできるだけ早く下げないようにしてください。
- ③ 急激な天候の回復と高温による植物体のしおれが甚だしい場合は、寒冷紗やべたがけ資材等を被覆して、植物体温の低下と蒸散の抑制を図ってください。